

平成23年度高知県芸術祭文芸賞入選作品

部門	受賞区分	受賞者	題名	
短編小説	文芸賞	結城 あい	紙ひこ一き	
	文芸奨励賞	尾崎 幹男	ある青春の出会い	
		大石 きさこ	夏の名残	
詩	文芸賞	阿部 美晴	母よ	
	文芸奨励賞	都築 悦子	かひつこ 鉄床に置く	
		るす いるす	こころ言の葉	
		松原 一成	猪	
		西山 幸一	欠点	
		野村 土佐夫	手	
	佳作	濱田 喬子	小さな壺	
		木下 涼	詩の力	
		小出 学	ヒサシと共に	
		国広 聖	亡霊	
今久保 麻衣	息ている			
短歌	文芸賞	川村 幸子	おやすみと携帯閉じてつい苦笑息子は朝のモントリオール	
	文芸奨励賞	川渕 湧三	漁を継ぐ家の減りゆく漁師町八十代は現役を張る	
		坂本 瑞枝	外遊びもままならざりし幼らか高知の海の水を離れず	
		たが 多賀 一造	三千の燭つぎつぎに灯しゆき仄かに浮き出し佐田沈下橋	
		徳永 逸夫	樹の上にも揺られてゐるごとし一日枝を打ちたる夜は	
		田村 慎太郎	地球にはふしぎなことがいっぱいだふしぎなぐらいいっぱいあるな	
	佳作	種田 恵美子	草刈機にエンジン掛けるそれさえも大儀になりて鎌に草刈る	
		西原 時子	海道の煌くたぐれ波のりを終えしサーファー黒子となりゆく	
		奥宮 正洋	宿直簿今日も異常なしと書くテレビは昼夜震災報ず	
		古川 安子	鳴子置き楽しかったと倒れこむ息子は学生最後の夏に	
		井上 あゆ	ちょうちよがね草花のみつすっているきれいなストロー持つてるんだね	
	俳句	文芸賞	山崎 光子	川やせて百万遍の祭かな
		文芸奨励賞	こうの 高野 基都	純白といふ重さあり夕牡丹
伊藤 よう子			へくそかずらの風につまずく不孝者	
くま 久万 艸子			付いて来し妻が先立つ花野かな	
柴口 美紀			飛び入りて人目はや引く踊かな	
宮崎 玲奈			答え出ぬ√よさらばソーダ水	
佳作		柴岡 弘城	靱殻を焼く火とつぶり暮れにけり	
		岡本 とも子	ぶらんこの揺れを残して別れけり	
		橋本 もみ	百年の開拓の碑や譜の花	
		山岸 孝子	峯寺へ霧籠めの礎まだ尽きず	
		中村 竹子	ボン菓子屋の辺り一面曼珠沙華	
		津田 吾燈人	草刈の後直会に呼ばれけり	
		西村 照子	一人降り一人乗るバス草の花	
		西込 とき	一と打ちに間のあり老の縄叩き	
		畑山 弘	逃げ水のなかより広島市の市電	
森 はるな		夕やけとマストにのぼるあとすこし		
川柳		文芸賞	とちか 遠近 哲代	点滴をごくごくぐくと飲むいのち
	文芸奨励賞	篠原 富枝	震災へ月にも陽にもひざまづく	
		小笠原 倫子	浮き沈み水が握っている命	
		近藤 真奈	花びらを落してからの形容詞	
		川添 郁子	悪党に風船ひとつ持たせたら	
		田中 綾花	一年生えんびつたちもかがやいた	
	佳作	小川てるみ	2011神の吐息が洩れてくる	
		土居 志保子	裏漉しをされて人間らしくなる	
		増田 純子	なにもかも夢三日月に腰をかけ	
		南條 麗子	逃亡先は月という都市伝説	
		桑名 知華子	約束の黄色い箱で送ります	
		とくま 禿頭火	朝顔がひとつ化石となる夕べ	
		岡村 千鳥	明日がほしい月下美人がポツリ言う	
		吉本 桂香	身の丈に合った一行詩に出会う	
		楠瀬 美香	色のない信号機にはしたくない	
新谷 恵俊	聴診器へ大きな息をしてあげる			
片岡 杏織	先生の一分なぜか早いんだ			